



# 百日咳が流行中 早期の診断、治療が重要です！

令和元年 7月3日  
富山県感染症情報センター  
(0766-56-5431 直通)  
(0766-56-8142 細菌部)  
(0766-56-8143 ウイルス部)

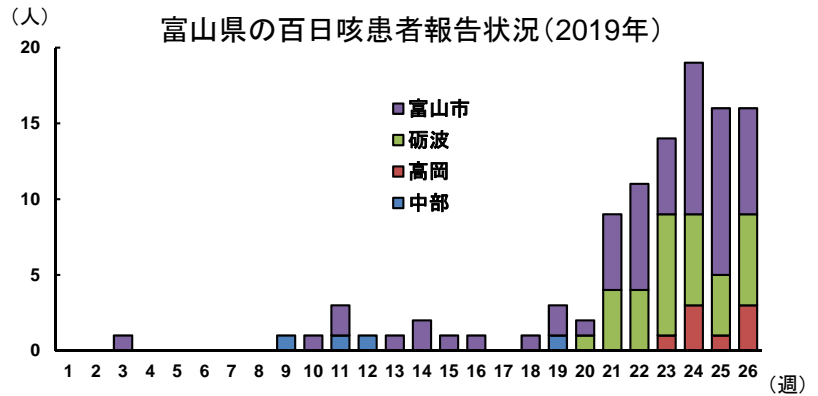
## 感染症発生動向速報

(令和元年 第26週分・6月24日～6月30日)

### 《 インフォメーション 》

#### ●百日咳

県内において、第21週以降、百日咳患者の報告数が9人以上で推移しています(右図)。今年の報告数は6月30日時点で103人となり、既に昨年の報告数(23人)を大きく上回っています。第23週～26週においては富山市、砺波、高岡管内からの報告数が多い状況です。患者を年齢別に見ると、小学生と推定される年代が多く(右表)、学校などで感染が拡大していることが推定されます。



0-4歳	3人
5-9歳	63人
10-14歳	30人
15-19歳	1人
20歳代	1人
30歳代	1人
40歳代	2人
50歳代	1人
60歳代	1人
合計	103人

わが国では、2012年から百日咳・ジフテリア・破傷風混合(DPT)ワクチンに不活化ポリオワクチンを加えた四種混合(DPT-IPV)ワクチンが定期接種として導入されています。百日咳ワクチンの接種により、発症予防効果が期待されます。しかし、その免疫効果は最終接種後に時間経過に伴い減弱します。報告された学童期の患者の多くも、ワクチン接種歴があることがわかっています。そのため、日本小児科学会は、就学前にDPTワクチン(任意接種)を追加接種することを推奨しています(詳細は、学会のホームページをご参照ください)。

感染拡大防止のためには、早期の診断、治療が必要です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。また、咳が続く人はマスクを着用することで感染拡大を防止することが大切です。

今後も百日咳の地域流行について引き続き注意が必要です。

### 《 全数報告の感染症 》

二類感染症 結核 7件 (①20歳代、女性 ②40歳代、女性 ③60歳代、女性  
④～⑥全て80歳代、女性 ⑦90歳代、女性)

四類感染症 E型肝炎 1件 (70歳代、男性)

レジオネラ症 3件 (①60歳代、男性、肺炎型 ②③ともに70歳代、男性、肺炎型)

五類感染症 百日咳 17件 (①第25週診断分：10歳未満、女性 ②～④全て10歳未満、男性  
⑤～⑩全て10歳未満、女性 ⑪～⑭全て10歳代、男性  
⑮10歳代、女性 ⑯40歳代、女性 ⑰60歳代、女性)

### 《 定点報告の感染症 》

今週の県内上位6疾患

順位	疾病名	定点あたりの数	
		今週 (増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	6.45 (↓)	7.21
2位	手足口病	4.10 (↑)	1.79
3位	伝染性紅斑	2.10 (↑)	1.55
4位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.97 (↓)	2.17
5位	流行性角結膜炎	0.86 (↑)	0.57
6位	咽頭結膜熱	0.79 (↓)	0.90

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます  
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

○感染症発生動向調査報告状況（令和元年第26週 令和元年6月24日～令和元年6月30日）

分類	疾患	今週報告分（第26週）					累積報告数						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
二類感染症	結核	1	1	1	1	3	7	10	7	22	22	29	90
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症								1	4		5	10
四類感染症	E型肝炎							2		1			3
	A型肝炎							1					1
	つつが虫病							1					1
	レジオネラ症	1		2			3	1		8	6	10	25
五類感染症	アメーバ赤痢											1	1
	ウイルス性肝炎									1			1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症									2	1		3
	急性脳炎											2	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									2	3	3	8
	後天性免疫不全症候群											3	3
	侵襲性インフルエンザ菌感染症									1	2	1	4
	侵襲性肺炎球菌感染症									8	8	8	24
	水痘（入院例）							1				4	5
	梅毒									2	1	11	14
	播種性クリプトコックス症											1	1
	百日咳			3	6	7	16		4	8	33	58	103
	風しん								1			2	3
	麻しん									1	2		3
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ					3	3	1,426	912	3,119	1,691	3,669	10,817
							0.19						0.06
	RSウイルス感染症	1	1				2	13	22	53	11	80	179
		0.25	0.33				0.07						
	咽頭結膜熱	4	2	6	2	9	23	115	20	211	46	155	547
		1.00	0.67	0.75	0.50	0.90	0.79						
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	3	20	3	27	57	94	102	486	204	856	1,742
		1.00	1.00	2.50	0.75	2.70	1.97						
	感染性胃腸炎	19	18	38	19	93	187	813	635	1,015	426	2,532	5,421
		4.75	6.00	4.75	4.75	9.30	6.45						
	水痘			6		3	9	15	13	42	11	213	294
				0.75		0.30	0.31						
	手足口病		3	22	19	75	119	19	14	47	46	183	309
			1.00	2.75	4.75	7.50	4.10						
	伝染性紅斑	2	5	15	2	37	61	86	31	367	83	329	896
		0.50	1.67	1.88	0.50	3.70	2.10						
	突発性発しん	1	1	12	2	6	22	21	26	118	25	104	294
		0.25	0.33	1.50	0.50	0.60	0.76						
	ヘルパンギーナ	4	1	2		9	16	71	5	8	2	13	99
		1.00	0.33	0.25		0.90	0.55						
流行性耳下腺炎		1				1	1	7	7	1	16	32	
		0.33				0.03							
急性出血性結膜炎										12		12	
流行性角結膜炎		1		2	3	6	1	9	24	28	7	69	
		1.00		2.00	1.50	0.86							
細菌性髄膜炎					1	1					4	4	
					1.00	0.20							
無菌性髄膜炎							2					2	
マイコプラズマ肺炎								2	2			4	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）							1		8	7	2	18	
インフルエンザによる入院患者（*）	1					1	42	42	52	98	99	333	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

\*インフルエンザによる入院患者累計報告数は、平成30年第36週(9月3日)～の集計です。

# パレコウイルス 3 型について

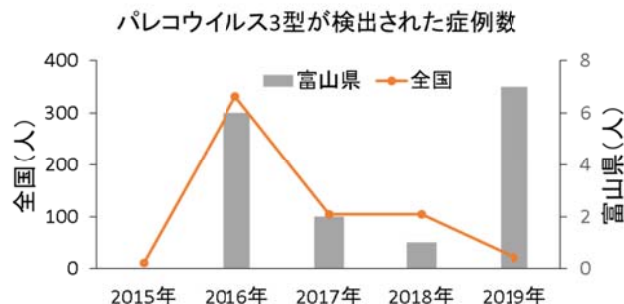
## \*\*\*\*\* Topics \*\*\*\*\*

パレコウイルス 3 型は、ピコルナウイルス科パレコウイルス属パレコウイルス A に属するウイルスで、約 30nm の球状の形をしています。現在、パレコウイルス A には 19 血清型（または遺伝子型）があり、人からの検出頻度が高いのは 1 型と 3 型です。パレコウイルス 3 型は、主に人の腸管で増え、飛沫感染や経口感染で人の間を伝播します。ウイルスは、唾や便の中に排出されます。新生児では、血液や尿中にもウイルスがみられます。臨床症状は、無症状や、上気道炎、胃腸炎などの軽い症状が多いです。しかしながら、新生児では髄膜炎や、脳炎、循環不全をおこし重症となります。新生児の特徴的な所見は、活気不良、頻脈、網状チアノーゼ、腹部膨満、掌蹠の紅斑です。また、小児や成人では四肢近位部の筋痛症や筋炎の原因となり、筋力低下を伴います。症状は 1 週間ほどで軽快し予後良好ですが、脳炎症例では神経学的後遺症を残すことがあり、乳児では突然死の原因になりえます。

今年の 5 月以降、富山県内各地でパレコウイルス 3 型の検出例が続いています。5 月 20 日から 7 月 2 日までの富山県衛生研究所でのパレコウイルス 3 型検出例は 7 例で、すべて入院症例です。症状は、新生児では発熱、無呼吸発作、循環不全、紅斑などであり、小児や成人では発熱と筋痛症（四肢）、筋力低下、睾丸痛などでした。これらの症例の多くで、先んじて子供（兄弟）が風邪様症状を呈しており、家族内で感染したことが推察されます。背景に地域流行、または伝播がある可能性が考えられます。

現在、パレコウイルス 3 型感染症に対して、抗ウイルス薬やワクチン等はありません。呼吸・循環管理等の対症療法が中心となっています。家族内や乳幼児間の伝播を防ぐには、手洗い、うがい、マスクの着用、排泄物の処理に注意が必要です。

全国の感染症発生動向調査では、今年、パレコウイルス 3 型は、急性脳炎・脳症や発疹症、上気道炎などの患者 21 名から検出されています（2019 年 7 月 2 日現在）。一方、2008 年、2011 年、2014 年、2016 年にパレコウイルス 3 型の地域流行例が日本の各地で報告されており、2～3 年ごとに検出例の多い年がみられます。



(参考)

- ・相澤悠太ら. ヒトパレコウイルス. ウイルス 2015, 65, 17-26
- ・板持ら. 2016 年夏から冬にかけて種々の疾患から検出されたヒトパレコウイルス 3 型について -富山県. IASR 2017, 38, 64-65
- ・国立感染症研究所. 病原微生物検出情報 <https://nesid4g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data60j.pdf>

(ウイルス部 板持)